幡多希望の家

◆◆◆ No.6 ◆◆◆

医療型障害児入所施設
療養介護事業
幡多希望の家

TEL(0880)66-2212 FAX(0880)66-2215
HP▸http://www.hatakibou.jp/
Mail▸hataki01@mb.gallery.ne.jp
<発行所>〒788-0782　高知県宿毛市平田町中山867番地
<発行日>2017年12月26日

社会福祉法人「幡多福祉会」幡多希望の家の開設20周年記念式典は平成29年10月29日皆様のご協力のもと盛大に開催させていただきました。

記念事業計画にあたって単に20年をふり返るだけでなく開設に至るまでの地元関係者の粘り強い取り組みとその中で出会った山崎勲元土佐希望の家理事長をはじめ地元関係者に支えられ歩み続けた20年の歴史に学び乍ら、今後10年20年を展望し地域に根ざした障害者福祉の充実をと考え取り組みました。

昨年7月には神奈川県「津久井やまゆり園」で元施設職員による障害者殺傷事件が発生し「共生社会」の大切さも認識を新たに、20周年記念事業として昨年11月23日、「宿毛市手をつなぐ育成会」様と共催し、村田一平様、山崎理恵様(重症児デイサービス施設「いっぽ」代表)・音十愛(おとめ)さん親子を迎え、共生社会を目指しての講演会は関西を含む県内外の方々400余名の参加をいただき、また今年9月1日には近隣施設の幹部職員の交流と素質向上を目指す研修会、更に5月21日希望の家祭を20周年記念と位置づけ取り組みました。記念式典は利用者御家族を中心にと考え、多少のご不便はともない乍らも多くのご来賓をお迎えしアットホームな式典となり、マジックショーや鳴子踊りなど20年を振り返りながら楽しいひと時を過ごしていただきました。

20年前、開設にあたって法人開設、施設整備に泊まりこみ体制で先頭に立って下さった山崎勲初代理事長ご夫妻の顕彰碑の建立に合わせ開設当初から親身になってご指導下さった土佐希望の家関係者も多数ご出席下さり、祝福と激励をいただきました。

永年勤続職員表彰では勤続20年22名、勤続10年4名の仲間が幹部職員、中堅職員として業務に精励していることに感謝し、記念品と共に今後の活躍を期待して表彰をさせていただきました。

また記念誌では入所者のご家族、在宅利用者のご家族に参加していただき座談会を行い、20年の歴史と共に今後の期待展望をも語っていただきました。その中では「近くに希望の家が出来て頻繁に訪問していたが、免許返納しなかなか逢いに来れなくなった」「近くに老人ホームを」と身につまされる思いをのべていただきました。

記念式典祝賀会当日は台風接近と重なり悪天候の中のご臨席賜りました、高知県知事様をはじめとするご来賓の皆様に心から御礼申し上げますと共に地域に根ざし利用者、家族、職員の笑顔のこだまする施設運営を目指すことをお約束しご挨拶といたします。

社会福祉法人　幡多福祉会
理事長　小椋　茂昭

さくらんぼ　ミニ秋祭り　大運動会

9月26日、厳しい残暑を乗り切るために、さくらんぼではミニ秋祭りを開催しました。午前はお神輿を皆で担ぎました。初めて担ぐ利用者様もおり、良い経験と共にお祭りの雰囲気を感じて頂けたのではと思います。午後は花笠音頭・お菓子釣りを行い、お菓子が釣れて喜ばれる方や釣れなくて悔しそうな方、それぞれに楽しまれました。花笠音頭は、この日の為に取り組みで何度も練習をされ、本番では、利用者様と職員が一体となり面白おかしく笑顔いっぱいの、心に残るお祭りになったのではないでしょうか。

10月24日には、晴れ渡る秋空の下、「通園センターさくらんぼ運動会」を開催しました。午前はさくらんぼの利用者の方々が楽しまれ、午後からは病棟の利用者の方々も加わり楽しまれました。趣向を凝らした各種リレーやパン食い競争、職員によるあめ玉探し、本気の綱引き等、思いがけない陽射しの中笑い声が響き渡りました。

季節は移り、これから寒い時期となりますが、利用者の皆様の元気と共に、いっぱいの笑顔で冬を乗り切っていきたいと思います。

支援員　田辺・西井・河野

腰痛対策委員より

現在、幡多希望の家では、ノーリフティングケアを進めています。

ご利用者を「抱え上げない」・「持ち上げない」・「引きずらない」ケアを『ノーリフティングケア』と呼びます。

このケアの中で福祉用具を上手に活用することも必要だとされていますが、用具の活用だけが目的ではなく、介助者の不良姿勢を改善するため身体の使い方を見直し、環境を整え、ご利用者・職員共に、安心・安全なケアを行う事を目的としています。

また、希望の家では毎月定期的に勉強会を行い、職員のノーリフティングについての知識や技術を高める努力を行っています。

現在希望の家にある福祉用具
・床走行型リフト　病棟2台　在宅2台
・スライディングボード　病棟(大)1枚　在宅(小)1枚
・マルチグローブ　病棟・在宅　全職員支給

編集後記

今年も早いもので数日を残すだけになってきました。当施設では今年度20周年を迎え、皆様には多大なるご協力を頂き、感謝申し上げます。

来年度は21年目という事で気持ちを新たに、利用者の皆様の為、地域の為の施設であるよう、初心を忘れることなく努めていきたいと思います。

ちょっとひとこと

最近、ショートステイやタイムステイを利用される乳幼児が3名います。

それぞれお家での生活とほぼ同様にお世話をさせて頂いています。何十年かぶりの乳幼児との関り、可愛さ100%、怖さも100%。子育て中の職員に聞きながら昔を思い出し、小さな紙オムツや電動の鼻吸器に「昔はこんなんなかった」とグチリながらもその子供さん達が来くれるのをにまにましてくるしています。

給食紹介

幡多希望の家　設立20周年記念

お品書き

一、散らし寿司
一、天ぷら
（鯛・茄子・椎茸・薩摩芋・隠元）
一、炊き合わせ
（南瓜・飛竜頭・海老）
一、胡麻和え
（法蓮草・白菜）
一、清汁
一、綿ようかん
「陽だまり」

施設長便り

第6号

平成29年4月幡多希望の家は開設20年を迎えました。そして10月29日、20周年の記念式典が希望の家の屋内で催されました。前日からの台風の影響で雨や風が心配されましたが、式典が始まる頃にはかなり静かになっていました。残念ながら初代理事長ご夫婦の顕彰碑の除幕式は風の影響が残っていたために、テント設営が出来ず行えませんでしたが、たくさんのご来賓の方々、利用者さん達、利用者の御家族の方々の出席を戴き滞りなく終了いたしました。引き続いて、イベントが開催されました。目の前でのマジックショーは、利用者さん達の目を釘付けにしていました。一つ一つのマジックに利用者さんの驚愕の笑顔が本当に印象に残るものでした。更に引き続いてのよさこい鳴子踊りは、美しい衣装に笑顔いっぱいの踊りで、大変にぎやかですばらしいものでした。利用者さん達にとってはこんなに身近で、鳴子踊りを見ることはなかなか出来ない経験であったと思います。20周年のお祝いの行事を利用者さん達を中心に、一緒に楽しめるものにしたいという記念式典の実行委員会の思いが実を結んだものと思い、実行委員会の皆さんにお礼を言いたいと思います。本当にお疲れさまでした、利用者さんの笑顔と驚愕の表情がいっぱい詰まった20周年記念式典でしたね。

夕方からは記念祝賀会が催されました。初代の理事長である山崎勲さんご夫妻初め、歴代の役員の方々や行政の方々、関係諸機関の方々大勢が出席くださり、和やかに20年の歴史に思いをはせて懇談いただきました。前回の希望の家通信で、平成9年度に幡多希望の家に入所された方が29人今も居られますと触れましたが、平成9年の初めから幡多希望の家に勤務してくださった勤続20年の職員が22名おられました。雛壇に上がった職員の顔には緊張の中にも20年の長い期間を思い起こして達成感があったように思います。代表からの挨拶がありましたが、利用者さんと共に助け合いながら、そして利用者さんから教えられ、学びながら過ごしてきた20年だったと思います。

さあ、これから幡多希望の家の次のステップが待っています。20年を迎えて、人でいえば少年期から青年期を過ぎて成人として周囲から認められる年齢になったということと思います。もう新設の施設ではなく、十分に経験を積んだ成熟した施設として、幡多地方の重症児者の福祉の拠点としての運営が求められます。更に幡多地方の災害時における福祉避難所としての役割も果たしていかなければなりません。宿毛市からの正式な要請ではありませんでしたが、今年一度、大雨が予想されるときに、近隣の高齢者の福祉施設からの一時避難を受け入れました。幸い大規模な洪水に至らず、一泊だけの避難で済みましたが、洪水が大規模になって避難が長期化すれば色々と問題点が出てくると予想されます。受け入れる当施設としても、しっかりとしたマニュアルを作成する必要があると思います。また東南海大地震が今後近いうちに発生が予想されており、その際の福祉避難所としてしっかりと役割を果たしていけるように、十分な備えをしていく必要があります。油断することなく、「天災は忘れた頃にやってくる」という、高知県の先人の有名な言葉があります。災害が発生しても慌てる事なく対応できるように準備をしていきましょう。

施設長　山本　洋

病棟一泊旅行

10月18・19日に4人のご利用者とそのご家族、職員、総勢13名で、大型バスを借り切って高知へ一泊旅行に行ってきました。

あいにくの雨で急きょ行先を変更したイオン高知では、買い物や賑やかな景色を見て、お昼寝もされることなく楽しく過ごされました。夕食は豪華な懐石料理をあっという間に完食です。中でも、普段から経口摂取の難しいMさんはデザートにケーキやプリンを嗜まれ、終始嬉しそうな表情でした。

その夜は久しぶりにご家族と同じ部屋で一緒に過ごす事ができ、嬉しすぎて夜更かししてしまいましたが、利用者のみなさんはいつもよりぐっすり眠る事ができていたように感じました。

2日目も雨だったのですが、緑や花に囲まれながらいただいた昼食はとても美味しかったです。帰りのバスの中ではご家族の方たちとの昔話に花が咲き、みなさん興味津々で聴いておられました。

今ではご利用者・ご家族とも高齢となり、こんなふうに一緒に過ごせる機会も少なくなってきていますが、利用者の方にとってご家族との絆が一番大切で、元気になれる幸せな時間だと学んだ旅行でした。ありがとうございました。

看護科主任　山口

ある日の取り組み